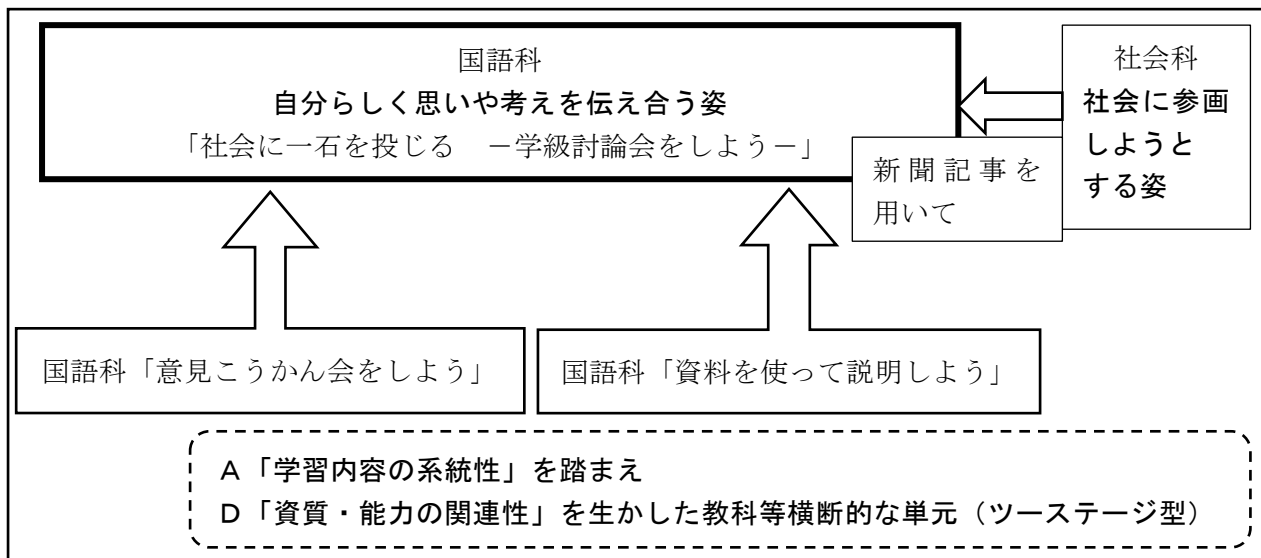


第5学年月組 国語科（＋社会科）

「社会に一石を投じる ー学級討論会をしようー」

指導者 岡田 海斗

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、A「学習内容の系統性」を踏まえ、D「資質・能力の関連性」を生かした単元である。

学習内容とは国語科の「話すこと・聞くこと」領域における「立場を明らかにして話し合う」という言語活動である。また、資質・能力とは国語科の「伝え合う力」、社会科の「社会に参画する力」である。

本学級の子どもは2学期に「意見こうかん会をしよう」という単元で、立場を明らかにして話し合う活動を経験している。その際、「学校で使うのは鉛筆かシャープペンシルか」や「夏に旅行するなら北海道か沖縄か」など子どもの生活に身近なテーマで話し合いを行った。2学期末の「あゆみ」には、「相手の考えに疑問を持ったり、自分の考えを持ったりすることができるようになった」「意見をしっかりと伝えて楽しかった」「これからも自分の意見をきちんと伝えて、気持ちを伝えられるようになりたい」などの記述が見られた。このように話し合うことを楽しみ、意欲的に学習できたものの、新しい話し合いの形式に慣れ、発言することに精一杯で、話の内容を明確にし、表現を工夫しながら伝える力を身に付けることは不十分であった。また、相手の立場の短所を非難する場面もあるなど、互いの立場を認め合い、考えを広げたりまとめたりするような話し合いをすることができなかった。

また、「資料を使って説明しよう」の学習では、学級全員の前でグラフや表などの統計資料を用いてそれを説明したり、その資料から導き出した自分の考えを伝えたりする経験をした。この学習では、「これからもみんなに意見を発表するときに生かしたい」「友達や家族に説明するときに資料を使って分かりやすく説明したい」などの学びを生かそうとする学習感想を持つ子どもが多くいた。

そこで、これまでの学習を関連付けて取り上げ、「資料を活用して表現を工夫し、互いの立場の意見を認め合いながら計画的に話し合うこと」を主たるねらいとした本単元を構想した。

本単元では新聞記事を基に話し合いのテーマを取り上げる。自分の身の回りで起こる出来事だけでなく、社会的な出来事にも興味を持ち始めている5年生の子どもに対して新聞記事の内容から論題を作り、学習を展開することで、国語科で目指す「自分らしく思いや考えを伝え合う姿」を、社会科で目指す「社会に参画しようとする姿」と共に高めていきたい。この学習を通じて、社会で起こっている出来事に更に関心を持ち、自分なりの考えや意見を教室で話し合った後、投書する原稿を書くことを通じて社会に向けて発信する経験をさせたいと考えている。

3 単元のねらい

- 資料を活用して表現を工夫し、互いの立場の意見を認め合いながら計画的に伝え合い、自分の考えを広げる。

4 単元の展開（全9時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規 準	時間
出 合 い	考えを伝え合い、社会に一石を投げよう。 ○ 新聞を読む。 ○ 討論会のテーマを決める。 ○ 学習目標を決める。	● 社会の出来事について討論会をすることに期待感を持っている。 ● 自分なりの学習目標を立てている。	1
追 究	学級討論会をして考えを広げよう。 ○ 討論会の準備をする。 ○ テーマ別に学級討論会をする。 ○ 討論会をして考えたことを書く。	● 自分の考えが伝わるように資料を活用して表現を工夫している。 ● 互いの立場を明確にして話し合い、自分の考えを広げている。 ● 話し合ったことを基に、自分の考えが伝わるように書いている。	4
振 り 返 り	考えをまとめて社会に一石を投げよう。 ○ 共通テーマで学級討論会をする。 ○ 討論会をして考えたことを書き、投書する。 ○ 単元のまとめをする。	● 「追究」の場面での学びを生かして情報を選択し、話し合ったり書いたりしている。 ● 自分の学びを振り返り、充実感を得ている。	4 本 時 その1

5 単元における指導と評価の工夫（国語科）

場面	三つの場面ごとの指導と評価の工夫
出 合 い	・ 子どもに身近でタイムリーな社会の出来事を話題として取り上げることで興味・関心を高める。 ・ この単元で身に付けたい力（目標）を示し、それに対する始めの自己評価をさせる。
追 究	・ 自分の立場に合った資料を選択して意見を作ったり、資料を提示しながら自分の考えを述べたりすることができるように、グループでの伝え合いの場を保障する。 ・ 討論会での頑張りを自己評価させたり相互評価させたりする。 ・ 毎時間、振り返りを記述させる。それを基に、個に応じた指導を行う。
振 り 返 り	・ 学びを生かして、学級全体で討論会を行ったり意見を投書したりすることで学習への充実感を得られるようにする。 ・ 単元を通じた学習の振り返りを書かせることで、できるようになったことや身に付いたことを意識付けられるようにする。 ・ 学んだことを生かせるように、他教科等でも討論形式の話し合いをしたり日常的に新聞に触れたりする機会を設ける。

6 本時の授業（6／9）

- (1) 日 時 平成31年2月1日（金）11:30～12:15
- (2) 場 所 5年月組教室
- (3) ねらい 自分の考えを持ち、それが伝わるように資料を活用しながら討論会に向けての準備をする。
- (4) 準備物 新聞記事、資料、ネームプレート、電子黒板、ミニホワイトボード
- (5) 展 開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1 学習課題を確認する。	e スポーツって何だろう。 ・新聞記事を読んでみよう。 ・ゲームがオリンピックの競技になるの？ ・私は反対だな。 ・僕も出られそうだ。 「e スポーツをオリンピックの競技にすること」について討論会をしよう。	○ 新聞記事や映像を提示し、テーマに興味を持てるようにする。
2 立場を決め、討論会に向けて準備をする。	討論会での自分の立場を決めよう。 ・賛成。男女の区別なく、体格や年齢の差を超えて誰でも参加できるのがいいな。 ・賛成。記事には集中力や戦略的思考力が付くって書いているよ。 ・反対。これはスポーツではないと思うよ。 ・まだ迷っている。 自分の考えが伝わるように工夫しよう。 ・この資料を使って、たくさんの人がオリンピックに参加できるようになることを訴えよう。 ・集中力や思考力も身に付くそうだよ。この資料を使おう。 ・ゲームのやりすぎは病気であることを訴えよう。 ・暴力的なゲームもあることを伝えよう。 同じ立場の友達はどのような意見を持っているのだろう。 ・このグラフから他のことも分かるのかな。 ・同じ立場の人と相談して、より説得力ある意見にしよう。 ・そういう考え方もあるんだね。 どんなことを質問されたり反論されたりするだろう。 ・そういう質問が来るのか。 ・相手の立場の人はどんなことを言うのかな。 ・反対の人はそういうことも考えているんだ。	○ ネームプレートを用いて、始めに各自の立場を明らかにさせるが、準備途中での変更も認める。 ○ 「迷っている、分からない」という中間的な立場も設ける。 ○ 新聞記事や統計など具体的資料を教師が提示し、それを用いて意見を組み立てさせる。（個人） ○ 資料からの気づきをグループで共有できるようにミニホワイトボードに記入させる。 ● 資料を活用して意見を組み立てることができているか。〔様態・ノート〕 ○ 賛成・反対の立場の子と中間的な立場の子の伝え合いの時間を設ける。
3 本時を振り返る。	明日の討論会が楽しみだな。 ・同じ立場の人ともう少し相談したいな。 ・みんなはどんな考えを持っているのだろう。 ・明日は絶対発表しよう。	○ 学習感想を書かせる。 ● 討論会に向けて自信や期待を持っているか。〔ノート〕

7 評価の具体的な方法

(1) 「出会い」の場面

	資質・能力が身に付いているかどうか	二つの欲求が満たされているかどうか
視点	○ この単元で身に付けたい力（目標）を理解しているかどうか。 ○ 自分なりの目標を設定できているかどうか。	○ 社会での出来事について討論会をすることに期待感を持っているか。
方法	○ 適切に自己評価できているか、自分なりの学習目標を立てられているか(数値と記述)を見取る。	○ 学習への興味・関心（数値と記述）を見取る。
目指す姿	○ この単元での目標を理解し、それに対する始めの自己評価が適切にできている。 ・2学期の学習を生かして、自分の意見に説得力を持たせて伝えたい。 ・相手の意見を聞いて反論するだけでなく、よいところも見付けたい。	○ 討論会をすることに対して期待感を持っている。 ・討論会が楽しみだ。 ・2学期よりも上手に話し合いたい。 ・たくさん発表できるように頑張ろう。 ・友達の考えを聞くのも楽しみだ。

(2) 「追究」の場面

	資質・能力が身に付いているかどうか	二つの欲求が満たされているかどうか
視点	○ 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫しているかどうか。 ○ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げているかどうか。 ○ 話し合ったことを基に、自分の考えが伝わるように書いているかどうか。	○ 討論会のために友達とかかわりながら準備をしているかどうか。 ○ 討論会をして伝え合うことをそれぞれの立場で楽しんでいるかどうか。
方法	○ 発表原稿やノートへの記述を評価する。 ○ 討論会の様子を見取る。	○ 毎時間の振り返り（記述）を評価する。 ○ 授業中の様態を見取る
目指す姿	○ 資料を活用して自分の考えを分かりやすく伝えている。 ○ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げている。 ○ 話し合ったことを基に、自分の考えが伝わるように書いている。	○ 討論会に向けて友達とかかわりながら準備を進め、期待感を持っている。 ○ 討論会に楽しんで参加している。 ・友達と協力して説得力ある意見を作ることができた。 ・討論会が楽しみになってきた。 ・討論会で友達の意見を聞いて「なるほど」と思った。

(3) 「振り返り」の場面

	身に付けた資質・能力を生かしたり発揮したりしているかどうか
視点	○ 「追究」の場面での学びを生かして、学級討論会に参加しているかどうか。 ○ 学級討論会をして、達成感や満足感を感じているかどうか。 ○ 投書するために、話し合いを基にして自分の考えが伝わるように書いているかどうか。
方法	○ 学級討論会での様子を見取る。 ○ 投書するための文章を評価する。 ○ 単元を通じた学習の振り返り（数値と記述）を評価する。
目指す姿	○ 満足感や充実感などを感じている。 ○ 今回の学びの持つ意味や価値を感じている。 ○ 今回の学びを通して、これからに生かせそうなことを見いだしている。